

国立がん研究センター
の発表です



NBS
119

たばこを1日**30本※1**以上吸う人は、吸わない人と比べて**急性骨髄性白血病**になるリスクが**倍増**することが**大規模調査**の結果明らかになったと発表しました。

海外の研究では、喫煙がこの**急性骨髄性白血病**のリスクを高めると報告されていましたが、日本人にも当てはまることが今回の大規模調査で初めて裏付けられたことになるようです。

国立がん研究センターは、10府県の40歳から69歳の男女約**10万人**を対象に、2012年までの平均約**18年**を追跡したようです。この急性骨髄性白血病になった90人（男55人、女35人）の年齢などの偏りを調整し、発症リスクを算出しています。

その結果、男性では、吸わない人に比べ**30本以上吸う人は2・2倍**リスクが高かったようです。女性は喫煙者が少なかったことなどから、はっきりした結果は出ていないようです。

急性骨髄性白血病

白血病は、造血幹細胞から血液細胞（白血球、赤血球、血小板）へと成熟する途中の細胞ががん化します。その白血病は、がん化した細胞が、もし成熟したら「何」になっていたか？によって分類されます。つまり白血球の中には主にウイルスを攻撃する「リンパ球」があります。成熟したら「リンパ球」になるであろう細胞ががん化した場合が**急性リンパ性白血病**です。そして、それ以外の細胞、つまり、リンパ球以外の白血球、赤血球、血小板になる予定である細胞ががん化した場合、**急性骨髄性白血病**（Acute Myeloid Leukemia：AML）となります。

急性骨髄性白血病（AML）の原因は不明ですが、研究では、放射線や抗がん剤などの化学物質が原因と考えられる症例もあります。まれに先天性遺伝子異常に関連した小児白血病もみられますが、白血病は遺伝性の疾患ではなく、したがって親から子に伝わることはありません。

白血病の中の急性リンパ性白血病には、ウイルスが原因で白血病を発症するものもあります。急性骨髄性白血病（AML）に関してはウイルスの関与が明らかになっていないものはありません。

急性骨髄性白血病（AML）は、はしかや水疱瘡のように伝染する病気ではありません。**10万人の18年間の調査結果は重く受け止めなければいけないのでは！**

※1 俺は20本だからセーフ という捉え方をしないで下さい

お父さん！

やめませんか！



西日本防災システム
NISHINIHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd
<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社Top Pageへ →